

**別紙様式 1**

令和 7 年度昭和中学校区研究推進計画

校番 ( 1 6 ) 呉市立昭和中学校

校長名 浮田 秀樹

- 1 学校教育目標  
自ら伸びる みんなで伸びる
- 2 目指す児童生徒像
  - ・学習や体験したことを生かして学ぶ児童生徒
  - ・自ら考え、判断し、自分の言葉で表現する児童生徒
  - ・自他を大切にし、自らかかわり合う児童生徒

3 育成を目指す資質・能力 ( 具体の姿 )

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働する力
( 中二・三年 ) 後期	現実の課題や新たに生じた課題等を解決するための、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている。	多面的・多角的に考察し、論理の展開の仕方や表現の仕方などを工夫して、効果的に表現することができる。	目標を明確にし、課題解決に向けて、見通しをもって、協働的に取り組み、学びを自己の生き方につなげることができる。
( 五・六・中一年 ) 中期		複数の事柄や資料などを関連付け、根拠をもとに、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	自ら課題意識をもち、多様なメンバーと協働して課題を解決しようとし、学びの価値を考えることができる。
( 三・四年 ) 前期		自分の立場や考えを明確にし、複数の事柄や資料について、比較、分類、関連付けてまとめて表現することができる。	課題解決のために身近な対象に進んで働きかけながら、ねばり強く取り組み、その成果から自分のよさや可能性に気付くことができる。
( 一・二年 ) 前期		自分の思いや考えを明確にし、複数の事柄や資料について、比べたり分けたり、例えたりして順序よく説明することができる。	家族や友達、地域の人など身近な対象に進んでかかわり、意欲的に学習したり、生活したりして自分のよさや可能性に気付くことができる。

4 研究主題等

( 1 ) 研究主題

「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成」  
～「考える授業づくり」と「あたたかい集団づくり」を通して～

( 2 ) 設定理由 ( 校区の児童生徒の課題分析等 )

本中学校区では、平成 3 0 年度から「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成 ～聴いて考えてつなげる授業づくりを通して～」を研究主題として、学力向上と自尊感情を高める実践を重ねてきた。また、令和 2 年度には、副題を「～『考える授業づくり』と『あたたかい集団づくり』を通して～」に変更し、あたたかい聴き方ややさしい話し方を通して、

児童生徒が安心して学び合う授業づくりや、互いに認め合い、高め合うことができる人間関係づくりの両面から研究に取り組んでいる。

昨年度行った児童生徒アンケート（令和6年度実施）の設問項目に対する肯定的回答は、次のとおりである。

すぐにできそうにない問題でも、最後まで取り組もうとしています。	87.3%（前年度比-4.9pt）
授業中、友達の考えや意見をよく聴いています。	87.4%（前年度比-5.4pt）
授業中、自分の考えや意見を分かりやすく説明しようとしています。	87.5%（前年度比-5.8pt）
あなたのよいところを分かってくれる友達がいます。	92.4%（前年度比-5.1pt）
自分には良いところがあります。	82.9%（前年度比-5.7pt）

この結果から、すべてのアンケート項目において昨年度の達成目標に到達していないだけでなく、一昨年度よりも結果が低下していることが分かる。このことから、学習に意欲的に取り組み、粘り強く積極的に学習する児童生徒の割合が減少していると考えられる。

しかし、「あなたの良いところを分かってくれる友達がいます。」という項目では、前年度よりも低い結果とはいえ、依然として9割以上の児童生徒が肯定的に回答しており、他の児童生徒と関わり合おうとする姿勢がうかがえる。

一方で、年々、自分の良さを実感し、高める機会が減少している。また、異学年や地域との交流の場が少なくなっていることから、他者に認められる経験が不足し、自己肯定感が高まりにくくなっていることが、その一因と考えられる。

また、小学校で実施した標準学力調査では、国語科および算数科において、正答率30%未満の児童の割合を5%以下にするという目標に対し、国語科では3.1%（前年度比+0.6pt）、算数科では5.7%（前年度比+2.6pt）という結果であった。いずれも前年度より正答率30%未満の児童生徒が増加しており、特に算数科の増加幅が大きいことが懸念される。

さらに、中学校で実施した実力テストでは、正答率30%未満の生徒の割合が、国語科で20.7%（前年度比+0.8pt）、数学科で39.0%（前年度比-2.4pt）となった。国語科では前年度より若干悪化したものの、数学科では前年度の41.4%から39.0%へと改善が見られた。しかし、依然として文章を読み理解する力や、数学の基礎的な知識・技能の定着が十分でない生徒が多く存在している。

以上のことから、本中学校区の児童生徒に共通する課題として、以下の2点が挙げられる。

- ① 互いに認め合い、高め合うことのできる人間関係が十分に構築されていないため、自己有用感が低いこと。
- ② 基礎的・基本的な知識や技能の定着が十分でないこと。

### (3) 研究仮説

本年度も引き続き、研究主題を「自他を大切にし、主体的に学ぶ児童生徒の育成～『考える授業づくり』と『あたたかい集団づくり』を通して～」と設定した。

学びの基本である特別支援教育の充実を基盤とし、授業規律（「やりきる三則」）の徹底を図るとともに、「昭和学びのスタイル」を基本とした「聴いて考えてつなげる授業づくり」を実践することで、児童生徒が主体的に学習に参加し、課題の克服につながると考えた。そのために、児童生徒の気付きを大切にしたい課題の設定や、考えを深める「問いの工夫」を行い、自ら学びに向かう児童生徒を育てていくことが必要であると考え。また、相手を意識した聴き方や話し方の指導、児童生徒をほめる場・認める場の意図的な設定を行うことで、互いに認め合い、高め合うことができる人間関係づくりを推進することが重要である。

全員が参加できる授業を実現することで、児童生徒が学習への達成感を得ることができ、それが学習意欲の向上につながる。また、児童生徒同士が互いに認め合い、高め合いながら授業を進めることで、学力の定着にも寄与すると考える。

以上のことから、児童生徒が主体的に参加し、互いの意見を尊重しながら学び合う授業を創造することで、本中学校区で設定した資質・能力の育成に迫ることができると考え、本研究主題を設定した。

## 5 研究内容

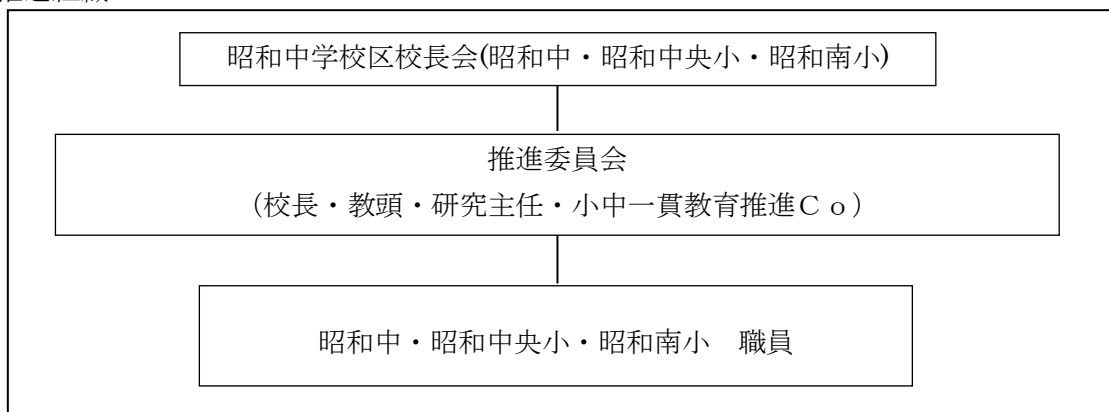
- (1) 「やりきる三則」の徹底
- (2) 考える授業づくり
  - 知識・技能を活用して、主体的に思考・判断・表現する児童生徒の育成。
    - ・ 「昭和学びのスタイル」を通して、一人一人の「気付き」を大切にしたい授業づくりを行う。
    - ・ 考えを深めさせるために「考えるための技法」を活用する等、問いの工夫を行う。
    - ・ キュビナを活用し、個々の課題に合わせて主体的に学習に取り組む児童生徒を育成する。
- (3) あたたかい集団づくり
  - 肯定的に他者と関わり合い、最後まで粘り強く取り組める児童生徒の育成。
    - ・ 教師がほめる場・認め合う場・つなげる場を意図的に設定し、児童生徒が分からないことや間違えることを躊躇せず発言できる環境づくりに取り組む。
    - ・ 小中合同での活動を計画・実施し、児童生徒同士のつながりを深め、自己有用感を高める。
    - ・ 地域人材を積極的に活用し、地域社会に関わり貢献しようとする態度を育てる。
    - ・ 各教室に「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を掲示し、相手を意識した聴き方と話し方の指導を徹底する。

## 6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 学力調査等において、正答率30%未満ので児童生徒の割合	標準学力検査 実力テスト	小学校では国語・算数5%以下 中学校は国語・数学10%以下	小学校 国語科：3.1% 算数科：5.7% 中学校 国語科：20.7% 数学科：39.0%	小学校では国語・算数5%以下 中学校では国語・数学10%以下
② 児童生徒の行動や記述内容の変容	児童生徒アンケート	「課題に対する粘り強さ」に関する質問項目	87.3%	95%
③ 児童生徒の学習や他者とのかかわり合いに関する意識の向上	学校評価アンケート	(1)「聴く」に関する質問項目 (2)「話す」に関する質問項目 (3)「他者とのかかわり合い」に関する質問項目 (4)「自己有用感」に関する質問項目	(1) 87.4% (2) 87.5% (3) 92.4% (4) 82.9%	(1) 95% (2) 95% (3) 95% (4) 90%

## 7 推進体制等

### (1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等

(中→小)

- ・昭和中央小学校第5学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和中央小学校第6学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和南小学校第5学年 算数科 (週2h実施)
- ・昭和南小学校第6学年 算数科 (週2h実施)
- ・小6児童の把握と指導 (3学期実施)

(小→中)

- ・中学校第1学年補充授業 (夏季休業中)

イ 小学校教科担任制等

- ・なし

8 推進計画

月 日	内容		
	昭和中	昭和中央小	昭和南小
4月 上旬	○校内研修		
	・昭和中中学校区 of 取組の確認		
	・乗り入れ授業について打ち合わせ		
4月 上旬	○推進委員会①		
	・5月全体研修会の運営についての確認		
5月 中旬	○全体研修 (昭和南小学校) (未定)		
6月 中旬	○推進委員会②		
	・7月全体研修会の運営についての確認 ・夏季全体研修会の運営についての確認		
7月 上旬 中旬 下旬	○児童生徒アンケートの実施		
	○授業研究・全体研修 (昭和中中学校)		
	○小中一貫だよりの発行 (担当: 昭和中)		
	○中学校第1学年補充授業		
8月 上旬 下旬	○校内研修		
	・全国学力・学習状況調査の結果について考察		
	○全体研修 (昭和南小学校) ・教科会 (国語・算数(数学)・理科・質問紙)		
8月 上旬 下旬	○推進委員会③		
	・全国学力・学習状況調査指導方法の等の改善計画について		
	・10月全体研修会の運営についての確認		
10月 下旬	○授業研究・全体研修 (昭和中央小)		
11月 下旬	○推進委員会④		
11月 下旬	・1月全体研修会の運営についての確認		
12月 上旬 中旬	○児童生徒アンケートの実施		
		○標準学力テストの実施	
	○小中一貫だよりの発行 (担当: 昭和中央小)		

1月 下旬	○授業研究・全体研修（昭和南小） ○推進委員会⑤ ・R7年度のまとめに向けて進捗状況把握	
2月 下旬		○標準学力調査の分析・考察
	○児童生徒アンケート及び標準学力調査の結果の交流	
	○推進委員会⑥ ・課題の分析と来年度の取組についての確認、全体研修の資料の確認 ・年間のまとめ、来年度の基本方針及び計画の確認	
3月 月上旬	○小6中1交流会	
	○小中一貫だよりの発行（担当：昭和南小）	

※各校の研修会には、随時参加する。

#### 9 その他

小中一貫だよりの発行（学期に1回）

※ 研究構想図、カリキュラムマップを添付する。